経済・産業・実務シリーズ

米国ファイナンス学会の最新研究動向

伊　藤　桂　一 CMA

目　　次

1．米国ファイナンス学会（AFA）年次総会の模様
2．AFA年次総会での研究報告の動向
3．最近の研究報告の紹介

1．米国ファイナンス学会（AFA）年次総会の模様

毎年初、1月の最初の週末はAFA（American Finance Association、米国ファイナンス学会）の年次総会と研究報告会が開催される（**写真1**）。筆者は2017年（シカゴで開催）から本年（サンフランシスコで開催）まで続けて参加しており（うち2021年および2022年はコロナ禍に伴いオンライン開催）、その内容や最近の動向について報告する。

1月最初の週末には、AFAに限らず、ASSA（Allied Social Science Associations：社会科学学会連合）に加盟する各学会・団体が同じ都市で年次総会を開催している（**写真2**）。この中にはASSAを主宰するAEA（American Economic Association：米国経済学会）が含まれているほか、不動産や保険、銀行、金融、経済史、税、計量経済、医療経済、産業組織、制度組織、行動経済、家計、地域経済など、様々な分野を研究対象とする学会が参加している。2025年のASSAでは、99の学会が何らかのイベントを開催していた。

参加者数は約13,000人（2025年）とのことである。これだけの参加者が宿泊を伴って全米や世界から集まってくるため、開催都市への飛行機や、期間中のホテルは予約することが難しくなるケースもある。また1月はじめの開催ということで、米国北東部（NYやボストン、シカゴなど）で開催される場合は天候リスクも大きい。2018年はフィラデルフィアで開催されたが、開催前日は東

伊藤　桂一（いとう　けいいち）
SMBC日興証券株式調査部チーフクオンツアナリスト。1992年京都大学経済学部卒業、同年、野村総合研究所入社。野村国際（香港）、米国野村證券、野村證券金融工学研究所などを経て、2010年日興コーディアル証券（現SMBC日興証券）入社。2022年より神戸大学大学院経済学研究科後期博士課程に在学中。主な著書に、『ESG投資の研究―理論と実践の最前線―』（一灯舎、2019年、共著）、主な論文に、“Interaction of investor trades and market volatility: Evidence from the Tokyo Stock Exchange”（*Pacific-Basin Finance Journal* 16(4)、2008年、共著）などがある。